進路通信

No.5

－平成２７年１２月２４日－

貝塚市立第一中学校　進路通信
〒597-0071 貝塚市加神１丁目５番１号
TEL 072-422-1527　FAX 072-422-1271

生徒と保護者のための進路情報です。保護者の方も必ずご覧ください。

今回の「進路通信」は全学年対象のものです。それぞれの学年が冬休みにどんな課題を持ち、それに対してどう取り組むかを確認してください。

冬休みの過ごし方　☆まだ伸びる、頑張ろう☆

クリスマスにお正月とイベントの多い冬休みは、誘惑に負けそうになるものです。しかし３年生は受験を間近に控えています。１、２年生も含めてこの時期どう過ごせばいいのかを考えてみよう。

各教科を復習／生活リズム守って

【３年生】　この時期からでも、学力はまだ伸びます。模擬試験がすべて終わり、自分の実力はこの程度と決めつけてしまう人がいます。まだ伸びると思ってがんばりましょう。

成績が伸びる場合、苦手を克服することと、得意なところが更にできるようになることが考えられます。

苦手克服は過去に解いた問題をしっかり復習することが大事です。問題集や模擬試験で、間違えた問題をそのままにしていませんか。見直して、やり直していない問題を整理しましょう。

得意な分野では、より難しい問題に取り組みます。問題集で「チャレンジ問題」というような、難度が高く飛ばしていた問題をやってみましょう。新たに問題集などを買う必要はありません。「これもやらないといけない」と自分を追い込んでしまうことになりますから。持っている問題集などで復習するのが鉄則です。

イラスト・大塚洋一郎

■弱点整理し不安を解消

この時期になると、不安は誰しもが持つものです。ただその不安がどこから来るのかというと、自分の弱点や、今後何の勉強をすればいいかがぼやけていることなのです。模試などを整理していくと、弱点が見えてくるし、これをやればいいのだとわかります。チェックリストを作り、優先順位をつけられれば、不安はやわらげられます。

冬休み中に最低１回はやってほしいのが、過去問を本番の時間通りに解くことです。次の教科へ気持ちを切り替えることの大切さやトイレに行くタイミング等がわかります。

受験での試験時間に合わせ、そろそろ朝型の生活に切り替えなければならないタイミングです。クリスマスだ、正月だと生活リズムを乱したり、勉強を休んだりしがちな時期です。しかし、受験のような人生を左右するできごとは、一生のうちにそう何度もありません。自分たちの正月は受験後の３月なんだというくらいの意気込みで、自分を律していきましょう。

【１、２年生】 勉強時間は「学年＋１」が基本です。１年生なら毎日２時間、２年生なら３時間です。元日も、です。

学校の宿題をこなすのは当然として、自分なりに各教科を復習してほしいです。２年生は、２学期までに数学の証明問題や連立方程式を習います。特に数学は、受験で中２の範囲から出題されることが多いのです。今身につけておかないと、３年生になって復習で余計に時間をとられてしまいます。

生活リズムを守り、睡眠時間を確保することを心がけましょう。例えば朝食は家族でとる時間を決める。夜は消灯時間を決める。生活が乱れやすい時期だからこそルールを作りましょう。

毎年この時期に里帰りをするご家庭もあるでしょう。受験生になると難しいので、１、２年生のうちに大事にしてほしいですね。

１、２年生のチャレンジテスト実施について

中学校では、文部科学省が示している「学習指導要領」に従って、評価の基準を作成しています。生徒・保護者の皆様から、入試で必要な調査書を絶対評価で作成する際、学校によって大きな違いが出てしまうのではないかという心配の声も寄せられていました。大阪府教育委員会は、公平な入試を実施するため、中学校が行う調査書評定について、府内統一ルールを定めました。

◎中学１、２年生の調査書評定の府内統一ルール

１　各中学校が年度末にみなさんの評定をつけます。

２　府教育委員会が、１、２学期の仮評定(約３割の中学校から抽出)の状況とチャレンジテストの結果から、３月初旬までに「評定の範囲」を算出します。

３　各中学校等は、みなさんの個々のチャレンジテストの得点が、府教育委員会が設定したした「評定の範囲」内にあることを確認します。

「チャレンジテストの得点が、『評定の範囲』内にある」とは…

例えば、府教育委員会が示した中２国語の「評定の範囲」が下の表の場合、調査書の評定は以下の手順で確定します。

あなたの国語の評定が「３」とします。

あなたのチャレンジテストの点数が50点だった場合、下の表の「評定の範囲」の評定３の「92点～31点」に入っているので、あなたの評定「３」は適正です。もし、チャレンジテストの点数が95点だった場合は、中学校の評定を「４」または「５」に修正します。

(例)評定の範囲
(平成26年度試行)

２学年国語	評定５	評定４	評定３	評定２	評定１
評定の範囲	100点～67点	99点～52点	92点～31点	75点～9点	57点～0点

上のように、中学校の評定が、チャレンジテストの結果によって変わってくる場合もあります。そのためにも、１月13日(水)に実施される“チャレンジテスト”に向けて、冬休みに自分の弱点を学習しておいてください。

チャレンジテストの出題形式として、①選択式問題(選択肢から選んで答える問題)、②短答式問題(短い語句や数値等で答える問題)、③記述式問題(長い語句や文章等で答える問題)に分かれています。特に、短答式問題や記述式問題への対応にも慣れておきましょう。また、読書などをすることで長い文章に慣れておくことも必要です。